

論文「活動性結核の診断におけるインターフェロンγ 遊離試験の偽陰性にかかわる要因の検討」

当院では、結核・非結核性抗酸菌症学会雑誌『結核』に投稿する論文において
西宮市立中央病院にて診療を受けられた患者さんの採血結果を、
個人情報の特定できない形で使用する予定です。

昭和中盤までは日本の死因第一を結核が占めるくらい日本は結核の“高蔓延国”であったのですが、近年ようやく“低蔓延国”入りを果たしました。それでも決して過去の病気になったわけではなく、この病院でも年間 10 件近い結核発症例を診察しています。世界的には発病していないが感染しているキャリア状態の方を含めると 10 億人以上の感染者がおり、年 1000 万人程度の発病者、年 100 万人以上の死者がいるとされます。結核はいまだに世界最大の感染症の一つです（いずれも結核予防会結核研究所から引用）。

結核という病気はレントゲンや CT だけではなかなか診断できません。かつてはツベルクリン反応を用いて結核感染者を見つけていましたが、日本人のほとんどが受けている BCG 接種の影響がでてしまいツベルクリン反応だけでは正確な診断できませんでした。

近年血液検査でツベルクリン反応より高い特異度で結核感染を検出できる IGRA 検査（医療者はよく“イグラ”と読みます。当院では商品名 T-SPOT 検査を採用しています）が開発されたために結核に感染されている方の把握はしやすくなりました。

ただし、各種の免疫抑制的薬剤（リウマチ膠原病ほかの病気を治す薬剤）が多く開発されてきて、それらの薬剤は IGRA の特異度を下げるうえに、結核発症のリスクも高めるとされています。各種難病を持つ方でそれらの薬剤を使用する際に IGRA がどの程度信用できるかを把握しておくことは大事になります。今回結核を発症した方について IGRA の結果が正しかったのか、この病院と近隣の合計 4 施設について 100 例以上について解析し日本結核病・非結核性抗酸菌症学会の公式の雑誌『結核』に投稿する予定となりました。

当然個人情報は全くわからないように、解析した人数が何人、診断的中率は何%というような記載になっています。それでもご自身のデータを集計に入れてほしくないという方もおられると思います。もしご自身またはそのご家族が上記の集計に使われている（結核を当院で診断された方ということになります）と思われた方で、学会誌に投稿する集計から外してほしいという方がおられましたら、学会誌への投稿時にその方のデータが入っていたらそれを削除した形で作り直しますので、お心当たりがあり集計からの削除を希望される方は下記へお問い合わせください。昨今個人情報保護が厳格になり、上記のような掲示は「オプトアウト」といって個人情報の保護は学術誌でも厳守すべきとされています。

お問合せ先： 西宮市立中央病院
電話番号 0798-64-1515(代) 医事課まで